

全校朝会 「 小惑星探査機はやぶさ 」

令和8年10月5日（月）

奥沢小学校長 前田 恵里

読書の秋です。何か面白そうな本はないかなと思って、図書館に行ったら、私が今から10年ほど前にとっても感動したことについての本がありました。それは、「はやぶさ」です。

「はやぶさ」は小惑星探査機です。宇宙には、まだ数多くの謎があり、その謎を明らかにする研究が世界中で行われています。日本は横幅にすると東京タワーぐらいの長さの小さな惑星「イトカワ」に「はやぶさ」を着陸させ、岩のかけらや砂などをとって地球に運ぶことを目的にしました。そのかけらなどを調べていくことで、宇宙の謎の一つが明らかになることが期待できるからです。

「はやぶさ」には人は乗っていません。コンピュータが乗っていて、地球にいる人が見守り、必要に応じて指示を出します。「はやぶさ」が地球から宇宙へ出発したのは、2003年でした。小惑星「イトカワ」に到着したのは、2005年。2年が経っています。そして、いよいよ着陸です。着陸して、すぐかけらなどを取って、「イトカワ」を離れなくてはなりません。何度か練習して成功したのですが、本番の1回目は失敗。燃料が少なくなっているため、2回目に挑戦するか迷いましたが、挑戦し成功。「イトカワ」のかけらが取れた可能性も十分あるので、すぐに離れて地球に戻ります。しかし、その途中、故障があり地球と連絡が取れなくなり、宇宙で迷子になってしまいました。迷子になってから46日目ようやく地球と連絡が取れるようになりました。燃料があるかチェックすると、もうありませんでした。そこで、イオンエンジンという別のエンジンを使って、地球に戻ることになりましたが、3年以上経った2009年、地球に戻れるまであと約7か月になった時に、イオンエンジンが全て故障してしまいました。しかし、地球にいる人たちの事前の準備や知恵、工夫により、イオンエンジンが動くようになり、地球に戻ることができました。2010年、地球を旅経ってから約7年。その時、「はやぶさ」には、もう力がなく、地球に到着したとき、燃え尽きてしまいました。これがその瞬間の写真です。世界中の人が感動しました。カプセルに入れられた大事なかけらは、地球上に落ちて、ちゃんと拾われ研究にいかされています。

夢ある未来を創る皆さん、自分の夢を達成するには、簡単にはいきません。様々な苦しいことや辛いことがあります。あきらめないで最後までやり抜くことです。

「はやぶさ」は宇宙では独りぼっちでしたが、地球で支えてくれる人、応援している人がたくさんいました。皆さんにも、家族や先生、友達がいます。みんながあなたを支え、応援してくれています。まずは、日々の学習に最後まで取り組むことであきらめない力をつけましょう。そして、今月は運動会があります。運動会に向けて練習を頑張り、やり抜いてください。



本校蔵書